

9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

80

70

60

50

40

30

20

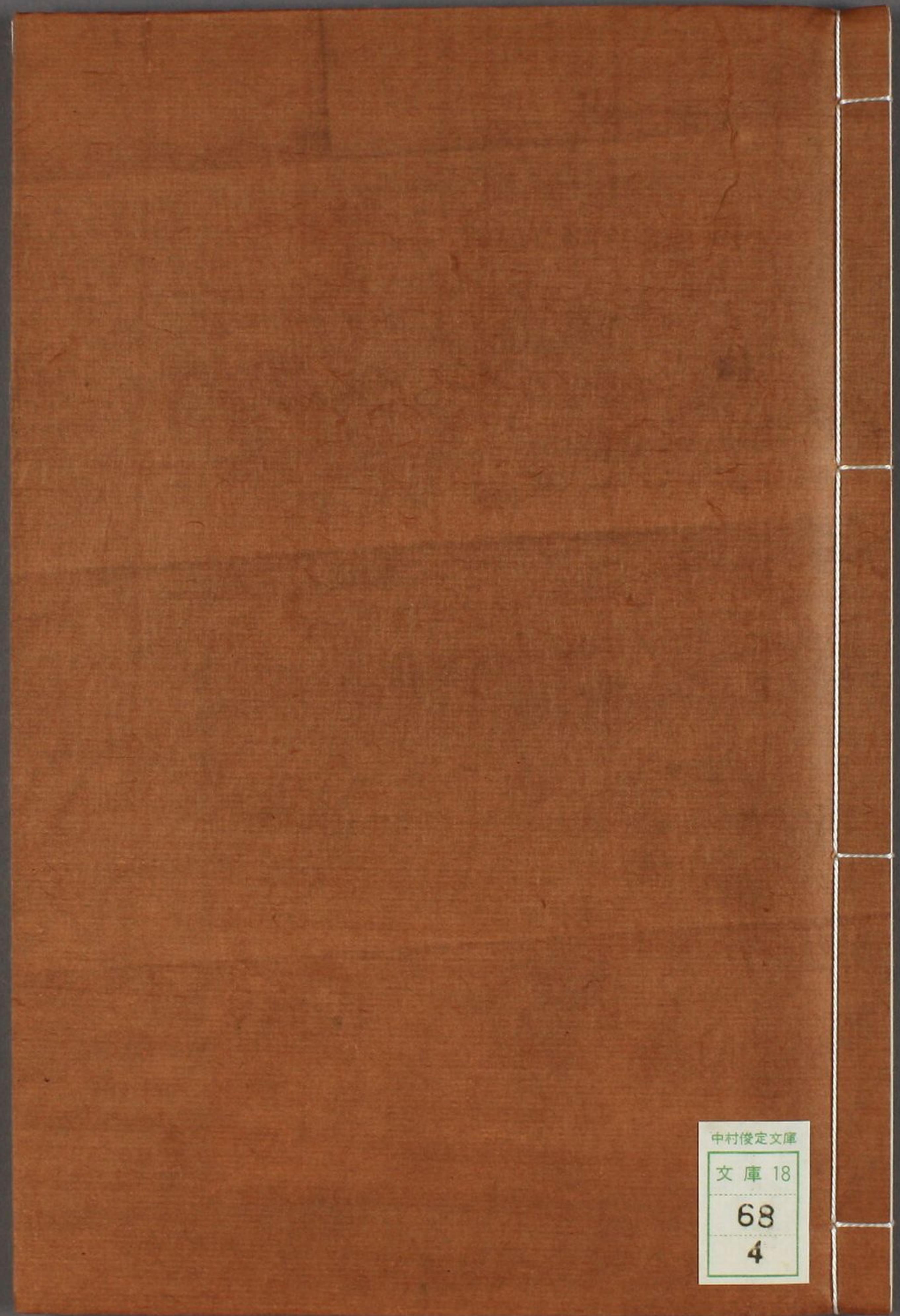
10

中村俊定文庫

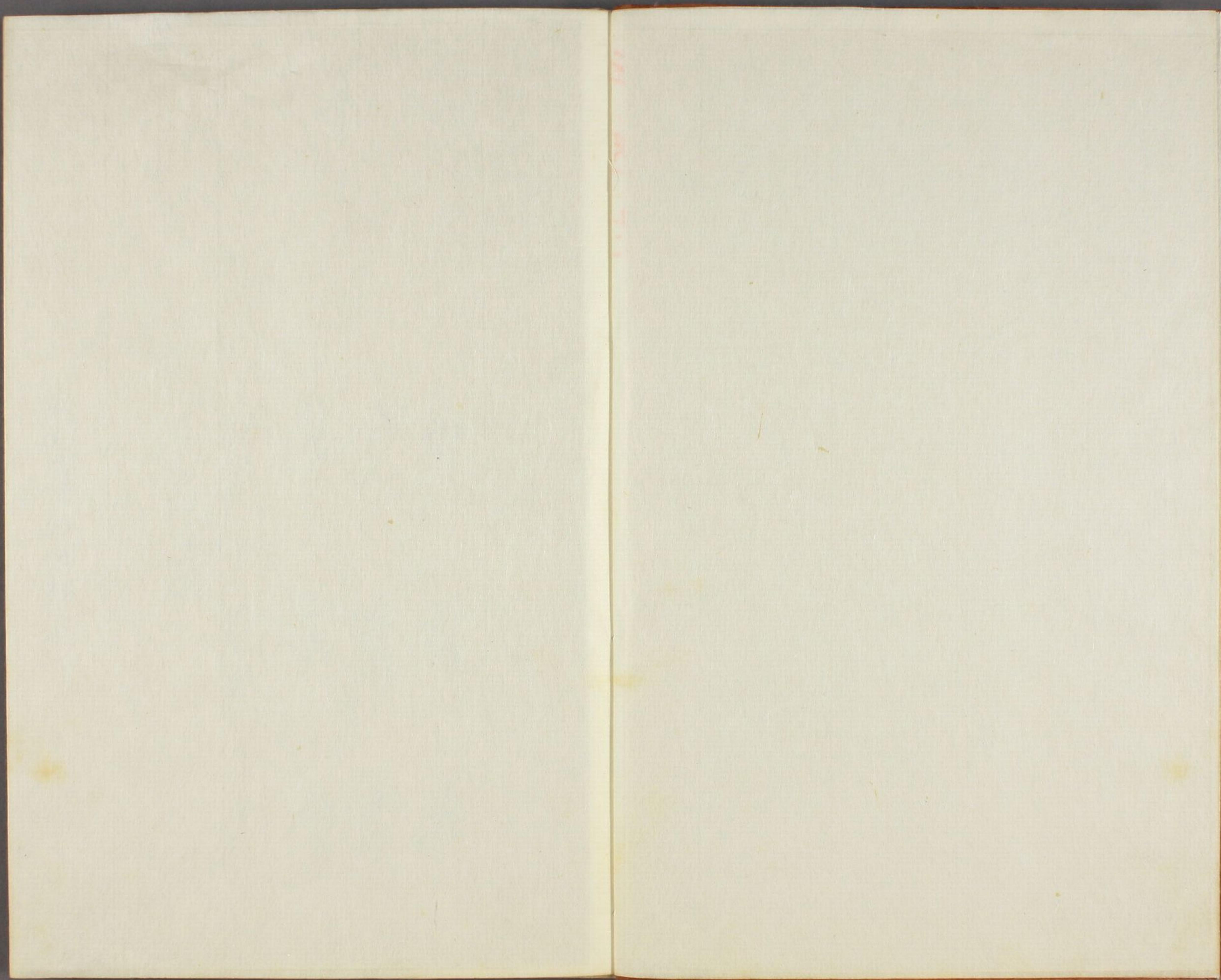
文庫 18

68

4



王道

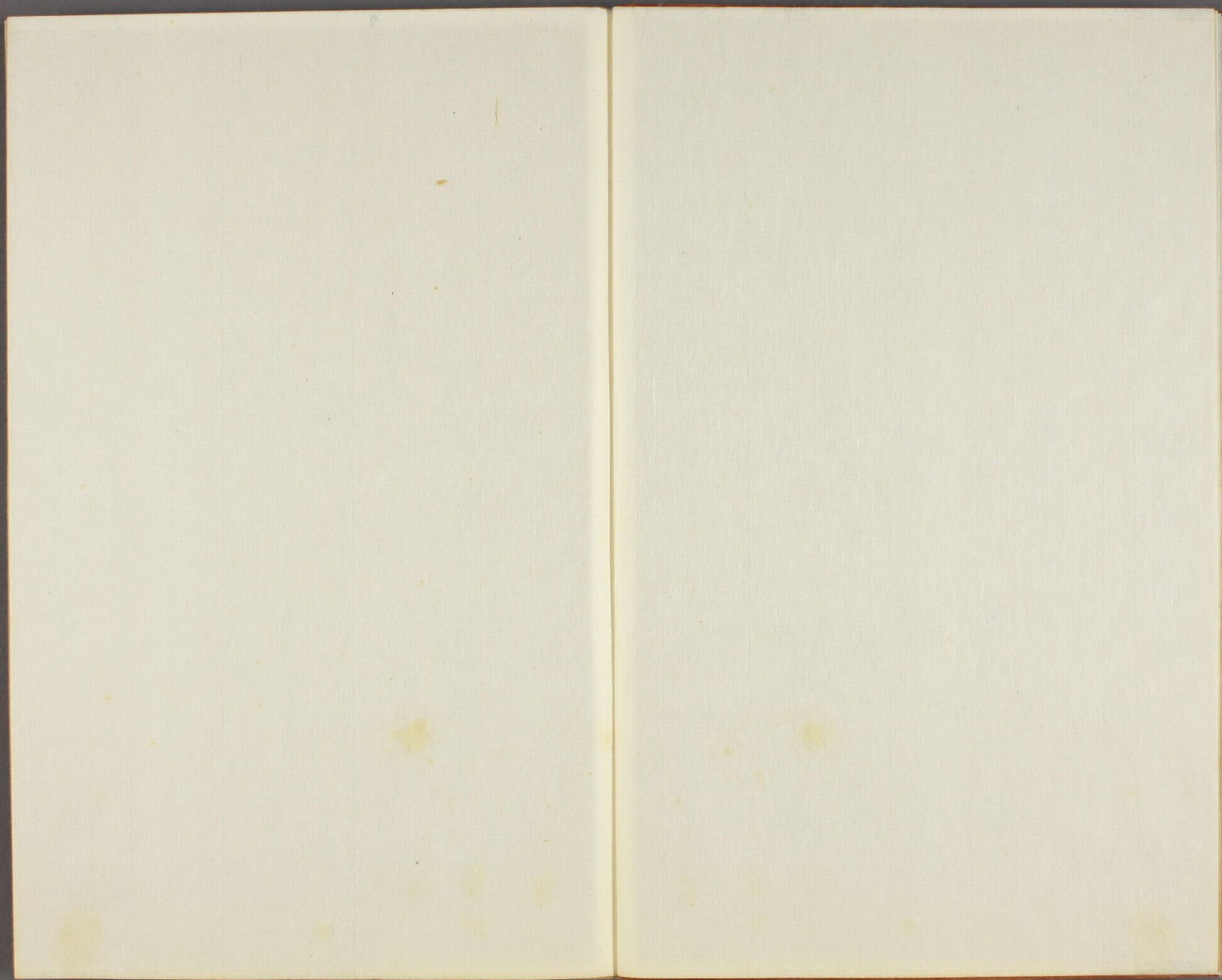


王海集追加題目錄

冬之部

黎 霜 氷
時雨 寒草 冬月
冰柱 落葉 疏

巢 水鳥 冬梅
神樂 袪 紅代 雪
歲芳 節分 雜冬
鷹 埋火 茶花



玉海集追加卷第四



初冬

夏秋れどもしき玉出
人ふみきんとよつわてくうも
旅魂れどもソシハ
多羅寺よりやかま月
江州彦根岩脇氏
江州東源村健寺
高野山

宿
正
旅
性
宿

次元

佛燈残もすりやや
徳善月

河内守
前福井多智氏
厨
丹波福岡内氏

時雨

傘をすりひろげづられ
さにりふかじるまのまれ
やてくまう十月のまれ
独り宿ひあらまひまれ
紀州松代
作州津山住
正家



蓑さする屏内うち庵のあくれり
すくはる宿のあくねやとくら題 間地氏
正量
あと風と空とあやまつのかくれり 大津福良氏 先述
よくゆくいせきものがけよすみ 井狩友靜
ね風の里い草木のあくねり 犬井代重次
努力の里い草木のあくねり 紀州野村氏 岩川のあくねりや石根の上
岩川のあくねりや石根の上 長本曾立
寐耳よいそれやゆひのきよ聞 曾立

きる扇ひとくもりゆきうちあくねり
間の工れみどはね乃あくねり 肥後熊本源氏 一直
ゆまとひを代りてやかね 直定 円
ひきりもやか代りてやかね 不必
あまつうひを代りてやかね 円 円
そりふめれ脚ともやかね 円 円
有馬よきれややかね 円 円

けとあけてやく成るまゝれも 日
よろや財産とやむかへず 長之
官川
ひきいきまづくとまくれん 貞室

竹 畠度

あくま下龜地おひのあれ前 日
日野外山方丈石一尺の時
お琴のさへうねのまゝれ 円

とちうて四の仮守なるお
ゆうふそくの爲めに四箇の内

篠原

内にすてゝ櫛理の木地前 豊 次
内地又袋よりの落葉の内
かして車を散らはせんや 江川草堂住宣道

風の神よ西清するやあ祭色山崎 梵益

あ祭衣身ようるおの焼火甲州出羽所田 未完

ちくじれあ祭衣すれ御尾州 之也

をつゝ木祭衣吉秀 前有田西良

水うちる紙香吉秀 未完

まおうてつとの木梶吉秀 未完

すやよ入吉秀 未完

薺塚吉秀 未完

四

跡の鼓伊藤氏 トマツのかけ落し
忠宣

南都佐村氏
奥州喜山野井上氏

馬口

芦の音伊藤氏 トマツの鼓
行波

水立山野井上氏
不競

やの鼓伊藤氏 トマツの鼓

五

そのまの中よこそあやまお柱 向的
あおくらうううか日みのほふ 葉秀但馬庄野長豐
あくらううくくうううううううう越前福井池田氏 一
酒送りさんきのとせあくらう 藤本代惠吉秀
それえ風氣かつ藤原あくらう 藤本代惠吉秀
朝ひ朝や船杭船あすあね舟方城
身浦身浦あ十三十三

あくらうる焼焼あくらう追修追修 長之

心痛よくう心痛 作作

あよ目あよ目あよの胸胸の板板あれ 春宵
あくらううへうへうへあくらうれ 京山代重基
島島よああのを行行 紺紺

ひくらうひくらう白板白板あくらうれ 一直
あくらう作作あくらう祇祇

園園よまとく

あも游游る祇園祇園の達達あもじあ 佐完

日野外山鴨長明乃用居

をもよて

あやまつてこれ方丈れど枕 貞室

家草

家萬代花りくらしもや糸酒播磨若狭山
京大宣

家萬代花りくらしもや糸酒源立

冬月

すと鳥の日や本あれあすゝ瞳丹波福知山
吉莫
さもよれうへおやられ到骨 不必
三ヶ月ひそかやうじ生ひるの山原口氏
吉氏
かづきりあねの日の秋りし筑前博田服
信貞

頃州西宮辰

正

あき身も足腰ひむきさうれ

頃州西宮辰

正

膝口をせとひよつくおれ

頃州西宮辰

正

あうきよまきあくわの紙小ひ

紀州和志山村

正

さひよ紙す差へくと病酒が

羽州松田氏

利宣

さしはれせひくわも二入病酒が

尾州川越氏

利宣

さしつきハシシや照ひあらわ

羽州松田氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

尾州川越氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

尾州川越氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

尾州川越氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

尾州川越氏

利宣

あき身も足腰ひむきさうれ

越前福井多賀氏

利宣

あうきのとうもよなまきまれ

越前福井多賀氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

越前福井多賀氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

越前福井多賀氏

利宣

さくはくく味方や酒は篠下

越前福井多賀氏

利宣

あき身も足腰ひむきさうれ

越前福井多賀氏

利宣

あき身も足腰ひむきさうれ

越前福井多賀氏

利宣

あき身も足腰ひむきさうれ

越前福井多賀氏

利宣

あき身も足腰ひむきさうれ

越前福井多賀氏

利宣

旅興りて

素日のもとを三世のちきりれ 月

氷

搗きてやうめあひこりゅび 摧曽
えりあく搗ねばに水され 大津豊田氏
越後よひくすまて潟 宣寺

よまくらて

まほとくらて楊波をあうり

敦賀野瀬氏
根州西官

浦くよみすりすくらゆ

正則

桶とねよみい水のかみられ

根州西官
肥後隈本源道

水桶よあくぬ蓋なむかりふ

朝瑞

茶の水よくどりとれぬ水れ

根州西官
直友

水城よくとれぬ水れ

勢州東若
山井

冬うれやすも水とする見る

根州西官
貞吉

うに草木と松枝さへ水れ
水鳥のとももすす水うね 摂^豊
ひも洗れ水やこりうてうす水^{敷賀野} 家^久
池の水すりやわらきえ風の音^{野々呂氏} 可^能
方^鏡絶^カ四^ノくれば波のあり水 波^寛
ううううと冬至^{アキシテ}の日^ハ水^面鏡^{洲富爾ア} 並^次
素^シそれあれどこのうの餌^{大津若林氏} 吉信
いと水よしすみやする理あさ水 直昌

忠吉とよ作のあくまに
狼狽成え^{アヤシ}よ
とひ餌^{アヒタ}たゞ^{アツ}水の水^れ 貞室
勧めな^{アシテ}よ^{アシテ}水^れ 内

水柱

石付とおひく^{アヒタ}水柱^{アヒタ}

豊前津守山氏
梅室

水神の役せられゆる水柱瓦
餓鬼の目火柱ともうづくれ

高野尚海院
源秀

敷

ほどのまん下戸ひきもあり表消
ひこうて消すと一てうちあくみ表
まあまちやもくや見えふくれ

肥後荒瀬
紀州野村
長本

雲

みえりうちややんのうて花 長之
やまとよりあくてもみくみえり
白粥う薺瓦かうつみえりゆき 小川
清喜蓮池もよづめにみえ地 紀宣
風にみえれぬややねの流山 波宗

雪

のうそすらねがうきせ雪
さのうて戸をてましれ見ゆ
考紙を酒成又くはあく 小野良氏
みとみてみとやおれ大和竹

相模国高柳氏

次節矣

貞祐居士七面忌冬懷

かにせあひのひの竹のす 藤本氏
被もや森もすらやさめ シ宗
あや竹の森もすらやあた 丹經寺
燒もとこれきよく

冬の物見是よするや食を 利宣
周の物成すうつめよすか 濃州平井氏
あくべくれをまほあにあくか 好次
むろいみきじりのみゆきよ 周祐
尾州高津氏

左京の山

君のゆきをまつするあら山 因

信誠

兔山や甲子てくくじら花

智庵主

悔多

をとみの難波の君や伊勢櫻

サトウ
狩氏

友靜

うちもとふ而

拂れ身代りせやあたひも

敦賀野瀬氏
室利

越中の桜井やまえあら花

正真

君にみへ一白やまに二白士も 全可
つじきい地獄うづく根根山 京佐商氏
家内國よつじた宮と用路うれ 長本
もつねた城つみゆづや六地蔵

賀州大橋氏
京佐商氏
吉勝
長本
攝州兵庫法蓮寺
本住

母比高きうれとぞ國ひしむ
そんもくにまく

おおだやかくして佇よこうき 羽州山形

本元

一花又あひくくの初祖うねれ君

長崎元野澤氏

曲肱

菩提樹へを磨うつさうとおの君

忠範

大方に疎漢樹も佛こうひれ

祐宗

芭蕉とすほんくわきれ芭翁れ

弘宣

芭蕉あよつゝいそれぞき女

大井氏
宣法

ちゆりや老てのねいをうか

越中のみことより更重遇

宅へ来候の時

君成等すもて子代すやね等

益次

おりて威ある君子りおれを

忠範

ひとまことに冬ふる季すおれを

武川田所住
直昌

先師十三回忌よ

けの花や落すまゝよ

伊東氏
家老
祐上

貞祐老人十三回忌よ

雪の花や落すまゝよ

青地氏
可邦

雪の花や落すまゝよ

吉の花
祐宗

風ひとつ吹ぬやう雪の花え涌

石舟

萬のものと何等の種や萬の花
物のやのをもりうらうるを

尾州
野双
奔、代
重次

医者の学察よまくして

短薬のひきひき一束伊賀信行寺

よもよや背よしりつて度の者不必

とふ人をあまされ

山さとの我あくちやまは友立ま
すまうとみるをよれ銀花井傳氏常後

あくる傷の月のれ車のれ 長之
もほりし粽うそたむれま 月
つ枝の餅の手杵のれ 情歌
うまぬやうひきひきし 不必
名ふ も惟をやまのえ 姿三千石屋神田
濃州岐阜其志 貞宣
あるひすのうそと袖のえ 秋扇
白の花もよしもこれ 高野南谷
詠田
白にあまうすや燐の糞 云共

鶴の鳥のさすむきあまうた 利宣

勢州松坂常念寺

昌杞

あらうとつてゐたまのあくび
あねうつこみけりやまひく 宮

賀加金正 橋本氏
度

由

月の月あつてうきやまくつこ 友靜
あくううわきうちあひのまといが 捷州留官
あくうよみすとくれまの花 尾州 正則
詠むきひよりまゆまむれひくじ 一入
君も四郎風も三郎よ兄弟

尾明熱田若原

叩端

むかし山後考院の隠湯乃の

よあくひよ

むかし山後考院の隠湯乃の

貞室

むかし山後考院の隠湯乃の

よあくひよ

むかし山後考院の隠湯乃の

先師蓄忌よ

因

むかし山後考院の隠湯乃の

よあくひよ

因

吉田山より作 脚晴方より
茶底考て
かえ峯よりいもや猿をとれ松 内
先師十三面のアシマモリ
かのう豹身引一作りて
方に危の事や一けしきの忌 因

鷹

あらかくとく夢志よ夜成
人ふまひれ
矣よ宿のとく聲冒れ古事記
絶野氏 津近
後の山のとく聲豊鳩の自由
さんとちきねりんとせ
ぬるよと鶴紙とくせ
ひひきとゆて

子代の餘君よりとんれ鷺の詩
正義

身すりぬけ氣味と有り

高三浦氏

春香

拿されりくにあらぬ事もとく無

大津福田氏

光通

料理でも第よりあや鷺の鳥

大津福田氏

光通

ア鷺や鷺にあていつこす

未完

伊勢鷺城アモロヒヤ國つまき

重遠

水鳥

水鳥のつひねまやうめうち
恵佐

大津福田氏

光通

雌雄うるる鷺やつむなづくめうち
院徳

光通

あらわや口もやのうへ千鳥

三信

まのうて射られか夷う鴻千鳥

柄室

藻くさよやうへきう鴻千鳥

丹波高麗谷
琴林宣

含重

多成くさよやうへきう鴻千鳥

武珍

まのうて射られか夷う鴻千鳥

肱完

行えりてとや中もなふ鳥

根州今津住
義元

あ／＼る／＼す／＼や／＼す／＼な／＼鳥

尾州田加若氏

ま／＼ら／＼す／＼あ／＼鷺／＼友／＼す／＼鳥

一南
鷺賀野近

芦／＼鷺／＼の水／＼く／＼と／＼く／＼り／＼す

尾州志佐近
宗与

黒／＼鴨／＼や／＼み／＼れ／＼中／＼あ／＼戻／＼す／＼ら

風消

揚／＼鶴／＼よ／＼あ／＼鶴／＼那／＼け／＼む

望闌

いきの家のね／＼よ多／＼代
つ／＼わ／＼れ／＼のりと／＼そ

香城／＼や／＼れ／＼鷺／＼友／＼鳥

貞室

網代

あ／＼え／＼や／＼ち／＼す／＼す／＼網代守

紀州物川森氏
定義

水底／＼ひ／＼底／＼す／＼る／＼や／＼水／＼す／＼

三州住
理重

埋火

埋火いまのあくられまひつゝれ 曾立

をふと退きて山家よびて

うつみ火の理きるのわからぬ

越前福井守
丹波井上氏

たゞて席すまほの火桶や起居

山崎住業垣氏
ト琴

茶桶や火桶のまどめ柄代毒

宣廣

扶向うのふしろ巣の火桶が

ト琴

まや破冬あくられと紀火燈

云共

冬夜き別よまゆやとん火燈

田

そゆきくよきはいにさこくふ
冬の寒れをちよりとくられ

丹波井上氏
度行

風よきよきけいあくられ

不必

灰の上に山石を置く

ト琴

あけて火を灰うのれ燐中灰

武州岩村守
木玉

負氷居士七回忌せる豹身行

せよ

埋火紙とりて居たる香煙丸 貞室

冬梅

古風に紅葉と名紙ある
かくて引と多く身まれ

さけふと悔て

紅や真城もまことにわれ柄 可頗

真城はや焼やく梅萬古 二信
多き苦^告難てよくや一祝白梅花

豈前守康天滿宮
丹波守義氏
緑一庵

食

多き事やあても少く齒を伏食 三州墨跡
厚紙のよぶよまよもじよ歯を 丹波守義氏
ひよりやつま成りきのう伏食 緑一庵

のうすよだやすれ能むのを食肥後安宗
まきにあらそつけてゆる食れ金門
太津若林氏吉信
あつまつめらまや佛ミナマ庄完

茶も

茶や貞翁尼云々の追慕よ
茶れ花やこれでいそんの向景よ

冬ハ又茶れ花園クニシマ江戸里 楠室

神樂

神乐すくしスカシこもくコモクちもチモ枕クッション村上氏
奇キ口ロや大已貴オオイケ乃ノ神乐笛クサク紀州石倉氏
一入イチヌすくしもすくしよの神乐クサク三信
秀ヒロノキヤ名子ナミコの神乐クサク利宣

酒發とくとく神主やよりの社之也
酒殿や三す天神のくくす同
そやうりと神子てえ神の神主ふ 座定
有平恵佑尊卦よへる後
とて教ちこねへ
まくせごもじ袖北神主 皇室

節分

節分はあらうけのまきあひま 大津早崎氏
節分の大豆ソレ鴉や鬼丸 重安
大一日節分なりされ
大日供り鬼のむことの節分を 仙負
さう人のお舟の差成者御れ 祀宣
さう人にまくやま成追舟 長本
牛狩氏と行(侍)

よに爰におうすいりや春井 友禪
よりてやれ節分やまばら天下 春宵
節分のあ城山すや筆の海 ト琴
さうんりゆるや松の花の音 貞室
ト越の舟かよけも老の波 因
数おほき立木とおせらふば 因

雜々

山崖の羽のひの葉やうりれ 摂州垂穗水谷氏
行氣すや陽よひくらうくら花 高昌
くらう花の再徳あれやうくら 田中氏
やくらやうくらまひ 枝杞の花 高房
その季れ咲きけやまとやねの花 正次
ちにうちく枝や白波比巴の花 恵佐
亂草のすまくわや許扣 伊賀前藤氏
一八

江州和菴、嘗ていふ

とくゆて

おれすうやつまむらまく和余傍
アモモシマリヤアガの清參　立奥
市守ひ篠つゝるや長者号　重正
湯のさみて又前代まんじゆ　並興
身のかつ真の月しうるこわいよ　太津若林氏
うすでつき入るてつや冰餅　吉口信
和州郡於萬政　玄成

すの如よりものせりやをつう　一
伊賀上野信行寺

ちきれきれくも神をやれ紙　不必
ひぐの紙小川のよくもか　^{紀伊郡氏}重良
伝絶を海してはやひづれ　^{紀伊}定利
質草むらくもお月肝ぎ　^{犬井氏}重次
もとこの矢代よすや肩の裏　^{三木}左宗
みくの肝ぎつまれぬくろ　^{播州}受一
あてやあくま父母れもえれ　^{村上氏}令教

柏月々十二調子の上より
充寛

はよとさんりと仰そゆて

たしてわよきこととよむおもて

負室

負室正月十三日負室無事

門禁ハナれぬ正月の作善

河内氏 正量

邊城は福寺にて当度

なづれゆくおまますうあけよ水草

負室

曆成とりて

ひそくまきにわふすける曆成 内

歲事

暑や寒やといひくひとこれ
せぬふすればざれまされ
飯のやうよおもく岁事れ
だくや胸骨すまされ
可れ
正量
不必

あいおもやまやいとよみのれ
ひのれははらうまくに筆書風
年浪はさつとあられよしむほ
年波のくみてとくそもれ 奥村氏
ぬりやゆくと波代あらうり 若英
わらふきせり石川のせり不_レれ 弁代宣次
年まくもほ世ひあられとくとも
大晴るよ終日晴れ

うらうら
一とぞのとひぬくと師走れ 月
一とぞもとくは藏生れとお根木澤安季
折さうて珠教の木澤安季やまぐれ 志紀
う成手をねじてよし師走れ 馬淵氏定好

手向や十

ひまくは猪ハ抱毎北く風 重道
ゆくととくめよまか鄰里 紀州高松氏定吉

物よりくれぬ事れどもうひ 王與
傳移とくもせらむれ 喜多
み取添て傳移も廻らせしわひ 長之
おき袖をうち師走の仕舞ひ 祐工
あぐさうとおり年の言 王與
四月のくわいとくろ師走の畠氏吉度

同極月

いとまよすよちまくられ 光友

播州 豊富

いとまよとくらむれおおれ 祐工
とくとくきめひとの樞れ 宮範
牛のとくのくわふ
むまいよおれぞや年め言 長之
おうちとせよじまの年の言 宮基
牛の年の言よ

聖よ馬あひけてうり年の言 曾立
酉の年の卯走もえ哉とくふ 東寺住森氏
定久

成の年の大所ト

越前野氏

大よけよおりうたうとせれ

吉秀

スノクセハシニ佐のとくとくとく
せまわるい一すは姉、せしやま
呉きうひゑくかせく若季草唐羽漢代
吉治

老のあやさをとる年の流き川

貞室

五十よだらけり、筆者よ

栗のまもとや出来く年のみ

内

日永ナーレ一月セセラ
伊豆名三郎丸平
明和十一年八月セテ松合了

